

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

大きな被災したるさとして、人々がいかに生きているかを見聞きした生徒たちの、「そこから自分たちができることは何か」を自然に発言しあう姿に、「ここに教育が真に目指すべきところが蘇りつつあるのでは」との思いにすら至った、感動的な報告会でした。

瀨成田実先生を中心に取り組まれたこの実践には、一つのモデルがあります。震災の年、石巻市の雄勝小学校で、徳水博志先生のもとで取り組まれた「復興教育」実践です。

被災直後の雄勝で、徳水先生と子どもたちがまず取り組んだのは、地元産の硯石を使って仮設住宅の表札を作ったことあげるといっていい。贈られた手作り表札に涙する地域

受け継がれる復興教育

石井山 竜平 (東北大学)

甚大な被害をもたらした東日本大震災から5年、風化が危惧されています。困難な中、復興に取り組んでいる被災地の「今」を、東北大学の石井山竜平先生に報告していただきます。

2016年1月、宮城県七ヶ浜町の向洋中学校で、一年生の生徒たち(94名)が取り組んできた震災総合学習「聞き取り調査発表会」がありました。グループに別れ、地域の様々な方(漁業・養殖業/農業/自営業/役員/NPO/町長・町会議員/警察官・消防士/仮設住宅の自治会長さんなど)を訪ねて被災状況や復興への思いを聴きとり、そこから学んだことをお互いに披露しあう実践です。

当の子どもたちが未来に求めたのは、大型スーパーなど便利なモノにあふれた街だったそうです。しかし、聞き取りを重ねるうちに、この地に住み続けてきた人々にとって大事なものは、海と共生してきた生活であることへの気づきに至ります。最終的には「雄勝にいたら一日いても退屈しない、雄勝の自然を感じる」ことが「復興モデル」というコンセプトの復興モデルプランが、2011年度の末、模型とともに、地域の方々や行政職員の前で報告・提案されました。報告会の映像には、「大人がまだ立ち直れていなくて、とても街の未来を考えるとゆとりがないときに、子どもたちがプランにまで



2011年9月、宮城県石巻市雄勝町で、地元の小学生から仮設住宅の住民に手作り表札がプレゼントされました。



2012年3月、雄勝地区震災復興まちづくり協議会で、石巻市雄勝小の6年生が震災復興モデルプランを模型を使って発表しました。

してくれました。ありがとうございます。この絵を必ず実現します」と、力強くお礼を述べる市職員の姿があります。

しかし、県がこの地に用意したのは、9メートルの巨大防潮堤で海と陸とを遮るとい内容の計画でした。防潮堤は今年度の着工が目指されていますが、「景観が残らなければまちに住民が残らない」と、防潮堤の高さの変更を求める有志の粘り強い働きかけが、今もぎりぎり

子どもたちのプランに沿う道を阻む壁は高い。しかし、この道を示した実践を、別の地域で引き継ぐ志が、確かな実践を生み出している。こうした継承が、いま、現れていることを、大事にしつかりと受けとめたいと思うのです。

執筆者プロフィール

石井山 竜平



東北大学大学院教育学研究科准教授。専門は社会教育行政論、地域生涯学習計画論。震災後は、被災経験がいかなる学習経験となっているかを各地で検証。

【主な著書等】

『東日本大震災と社会教育 3・11後の世界にむきあう学習を拓く』(編著、国土社、2012年)、『地域学習の創造 地域再生への学びを拓く』(佐藤一子編、共著、東京大学出版会、2015年)ほか

サークル訪問

にじいろステップ

「にじいろステップ」は、柳沢公民館主催のまちづくりをテーマにした講座(平成25・26年度実施)の受講者が、「これからはもつながり続けたい」と立ち上げたサークルです。現在、子育て世代の30代とその子どもたちから80代まで、世代が異なっても話しあえることを実感した30数名が、多世代交流とまちづくりをキーワードに、映画観賞や料理づくり、イベントへの参加などの活動をしています。

サークル名の「にじいろ」は「多世代」「七色の声(いろいろな意見・考え)」「ステップ」は「step by step」(少しずつでもレベルアップを)を表しています。「地域の架け橋に」という願いもこめられています。

取材した2月の活動は、まちの歴史を学ぼうと、西原総合教育施設にある郷土資料室の見学。お母さんが仲間と一緒に説明を受けながら、縄文土器などの展示物を熱心に見ている間、3歳

